



年 頭 所 感

PC建築部会長

山田 恒太郎

安藤建設株式会社 代表取締役会長

新春を迎え、謹んで新年のご挨拶を申し上げます。

会員の皆様には平素よりPC建築部会活動に多大なご支援、ご協力を賜わり、厚く御礼申し上げます。

昨年、わが国は東日本大震災という大きな試練を受け、震災復旧と原発事故対応を進める中、全国各地で記録破りの集中豪雨、強風による自然災害も多発しました。また、タイでは、洪水により産業へのダメージが深刻なものとなり、ユーロ圏における通貨危機、株安・円高と欧米の景気減速懸念など、グローバル社会の中で、サプライチェーン・マネジメントの重要性を改めて痛感しております。

一方、建設市場に目を向けますと、住宅を中心とする民間建設投資と震災関連を含めた公共建設投資の増加により、今年度の建設投資は、昨年度比8・5%増の44・6兆円と推計されております。こうした中、震災や自然災害を受けた被災地においてはもちろんのこと、国民の安全・安心を守る社会資本の整備の必要性が求められ、建設業への大きな期待が寄せられております。

このような状況の下、我々PC建築部会は、PC工法による集合住宅をはじめとする各種建築物の高品質、高規格を目指した技術の研鑽をさらに推進するとともに、耐震性能の向上の観点からの技術面での取り組み、地球環境保全の観点からの工業化建築を通じた豊かな社会の実現への寄与が重要な使命であり、責務であると考え、活動を展開しています。

昨年の活動としましては、PC部材品質認定制度に基づくN認定8工場およびH認定4工場の不定期審査を行い、国外では現在工業化を積極的に推進している中国の認定4工場のサーベイランスを行うなど、国内外を問わず、認定工場

で製造されるP C部材の品質確保に努力してきました。

本年は、P C工法施工管理技術者資格認定制度に従い、資格認定のための講習会と試験の実施および更新のための講習会を予定しており、P C工法施工管理の重要性の認識や施工技術の継続等、明確な目標に基づいて施工技術者の育成に努めてまいります。また、日本建築学会への支援としては、J A S S 10 改定小委員会に参画し、仕様書の改訂作業や資料提供を継続しております。

このような活動を通じ、会員の皆様と共に業界の地位向上に向けて邁進する所存でございますので、尚一層のご支援を賜りますようお願いいたします。

建設業界においては、建設現場で働く熟練技能工の高齢化、離職による慢性的な労務不足が問題となっており、躯体工事建設のコストアップに繋がっています。今後、環境面での要求も併せまして、P C部材の需要は増加すると考えられ、P C建築部会への期待が一層高まるものと推測されます。

建設業界を取り巻く環境が目まぐるしく変化する中で、対処しなければならぬ課題が多くございますが、この状況を乗り越え、確かな展望が実感できる年となりますことを心より祈念いたしまして、新年のご挨拶とさせていただきます。